

命を奪った奴はだれだ

宮浦鉦鉦長室事件裁判で最終弁論



古賀現組合長(当時書記長)は、まだ機動隊の責任者と自主解決について話し合っていた。その途中、機動隊はこうして室内に押し入ってきて整然としている組合員に向つて襲いかかつてきたのだつた。

いどをはき違えるな

三井鉦山こそ罰せよ

検察側の論告のあとを受け、去る七日福岡地方裁判所で開廷された、宮浦鉦鉦長室事件裁判で、組合側は最終弁論を展開。前回は検察側論告の不当性を鋭く追及、古賀現・古賀進の両弁護士の先頭に、各被告が立って明らかに無罪であること、罰せられるべきは人命を無視し、生産第一主義に目がくらんで坑内保安を軽視した三井鉦山だ、はき違えもはやだ、と強く訴えた。

法廷ではまず吉田弁護士が立って、①組合員が宮浦鉦鉦長室に入つたことは、鉦側のあまりな保安無視(連続して災害死をたてたこと。江上正弘・井上睦美の二組合員を捕縛させたこと)の正当な背信行為や挑発行為に對し、正当な防衛行為を行ない、さらに宮浦指導部からの懸念を呼びかけにもかかわらず、重大な保安団交をさえ無視し続ける鉦側にたまりかね、いまは直接鉦の最高責任者の藤吉重敏・鉦長に会って話し合おう、となつたこと。

②しかも鉦長室内の組合員の行動は終始整然としていて、また係長やその他の係員など自由に入出入りしながら職務に支障がなかつたこと。

③その組合行動に對し、鉦側は理不尽にも警察機動隊の出動を求め、不当な弾圧を加えてきたが、組合側はその緊迫した情勢のなかで、自主的・平和的に解決しよう、機動隊の指揮者に求め、これと話し合うほど冷静に対処したこと。

④それにもかかわらず鉦側はついに一片の誠意をさえ示さず、機動隊員もまたいきなり室内に突入、整然と行動していた組合員になりかかつてきたこと。(事実、組合員の間には重傷者をだした)

⑤いよいよ鉦長室内の施設破壊の事実があつたにしても、それこそ組合側のまったく開知しないこと。続いて古賀現・古賀進の両被告が立って、三井鉦山が坑内保安を軽視して無罪な事実をつきつけながら論述し、この事件に限らず、全被つぎに強行した合理化が三井労働

目立つ増額修正など

手当も単産要求はば揃う

春闘情勢

【連合】インフレ反対、生活防衛を掲げた今春闘で、各単産の賃上げを中心とした要求がほぼ揃つてきた。また今年にはインフレ手当を要求する組合があるのも特徴。合理化に伴い、各単産は軒並みこれからの要求基準を額、率とも上回る要求を決めている。炭労の五万七千円を、紙、労連が四万四、五万五千円(三〇%相当)を決めているが、各単産は軒並みこれからの要求基準を額、率とも上回る要求を決めている。炭労の五万七千円を、紙、労連が四万四、五万五千円(三〇%相当)を決めているが、各単産は軒並みこれからの要求基準を額、率とも上回る要求を決めている。

主張

春闘勝利の力を 自民党政府打倒へ

日本列島を吹きまくるインフレの風物、物価の値上がりは日本ばかりでなく世界的なものである。その責任を回避しながら、ますます独占の道を進んでいる。

しかも物価の値上がりは物不足からである。と宣伝を行なっているが、灯油だけを見ても、十一月二十一日の国会では社会党の追及で、十月末の在庫だけで、十二月高と、月間としては二十六年以来二十数年ぶりに、三〇%を超える大幅値上げになっている。

田中反動政府は、このようなインフレの実態を認めようとせず、物価の値上がりは日本ばかりでなく世界的なものであると、その責任を回避しながら、ますます独占の道を進んでいる。

ラル石油のごとき商社の便乗値上げがさげだされてきた。

①インフレを乗り越える賃上げ 炭労要求は五万七千四百円(最低賃金制の確立。全国一律五万五千元。)

②春闘で広がる深まった労働者の団結を中心とした反自民、反独占、夏の参議院議員選挙に勝利する。

③三井労働組は現在、三井闘争以降のぞみ得ないことである。

④生命と健康を守る反合理化闘争の闘いを、職場と地域の闘いを

⑤生命と健康を守る反合理化闘争の闘いを、職場と地域の闘いを

⑥生命と健康を守る反合理化闘争の闘いを、職場と地域の闘いを

⑦生命と健康を守る反合理化闘争の闘いを、職場と地域の闘いを

⑧生命と健康を守る反合理化闘争の闘いを、職場と地域の闘いを

賃金の実態を明らかにし、労働条件や福利厚生の上を目指し、三井労働組の全労働者の共同をもち、炭労の特別一時金闘争、春闘と結合させ、今日のインフレに怒りを燃やしている労働者連帯を、国民春闘として、労働者が先頭に立ち、がんばるべきである。そして春闘をただ一時的なものとして終わらせることなく、その力を維持発展させ、そしてきたる参議院議員選挙を通じて自民党政府を打倒し、政治そのものの流れを、変えることを目指すべきである。

【連合】英国 している所得政策を打ち破れるか、どうかを決する、政治的にも経済的にもきわめて重大な性格を帯びるものとなっている。ヒース政権は、英炭労、合同機成労組、国鉄機関士労組などのインフレ阻止、大幅賃上げを要求するストによって国会解散に追い込まれ、二月二十八日総選挙という手段に訴えた。保守党は「政府が共産主義者が炭労ストを政府転覆に利用している」と分断政策を図り非常体制をしいて、府が法律で実施する。

炭鉦労組無期限スト 2月末総選挙で対決

炭鉦労組(ノー・リー)委員長・二十七万人は、二月十日、八八%という圧倒的多数の支援を背景に全面ストに入つた。英炭労は、平均三〇%の賃上げを要求。同労組の闘いは、政府政策を断絶する非常に重要な意味を帯びている。